



ゆづりは

堺市立図書館だより

第18巻 第1号 (通巻66号)

発行日 令和5年6月10日

編集・発行 堺市立中央図書館
〒590-0801 堺市堺区大仙中町18-1

電話 072 (244) 3811

FAX 072 (244) 3321

https://www.d-library.jp/SKI01/g0102/
libcontents/search/?gid=1025



▲電子版

コンビニエンスストアで図書館の本が返却できるサービスを試行実施!

試行実施期間: 令和5年6月1日から令和5年11月30日まで

図書館で借りた本を、図書館まで持っていかなくても返却出来たらいいなと思ったことはありませんか。

堺市立図書館は、株式会社セブン-イレブン・ジャパンと連携して

「買い物のついでに」「通勤・通学のついでに」

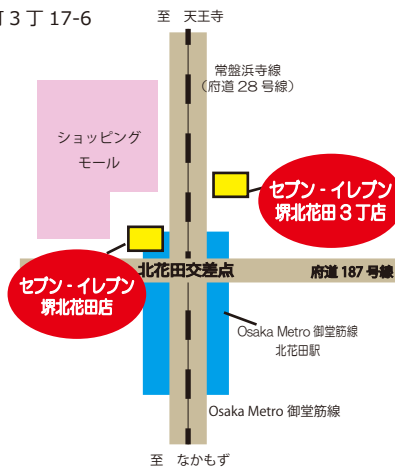
そんな“ついで”のときに図書館の本が返却できるサービスを試行実施します。

この試行実施を通じて、身近で手軽に利用できるサービスの拡充をめざします。



今回試行実施する店舗

- セブン-イレブン堺津久野駅前店 堺市西区津久野町1丁11-25
- セブン-イレブン堺北花田店 堺市北区東浅香山町4丁6
- セブン-イレブン堺北花田3丁店 堺市北区北花田町3丁17-6



利用方法

店舗に返却



- 堺市立図書館で借りた本を、上記3実施店舗のレジカウンターにお持ちください。特別な登録や届け出は不要です。

注意事項

- 店舗に返却された本は1日1回集荷し、図書館で返却処理を行います。
- 処理を終えるまでの間は「貸出中」の状態となりますので、ご利用の際はご注意ください。
- 大型絵本、市外から借りた本など、一部このサービスをご利用いただけないものがあります。
- ご不明点等ございましたら、中央図書館までお問い合わせください。
(中央図書館総務課 担当)

目次

- コンビニエンスストアで図書館の本が返却できるサービスを試行実施! ...1
- この本で解決! 「藤の木に実がなる過程が知りたい」 ...2
- 堺市へのふるさと納税で“図書館児童資料の充実”にご協力を! ...2
- 電子書籍貸出しています ...2
- 堺市図書館まつり 4年ぶりに開催 ...3
- 『堺研究』第45号発行しました ...3
- 司書のイチ押し 『本を贈る』 ...4
- 堺市立図書館電話番号一覧 ...4

ゆづりはとは...

中央図書館の正面玄関前に、堺生まれの詩人河井醉茗氏の歌碑があります。

年ごとに
ゆづりゆづりて
譲り葉の
ゆづりしあとに
また新しく



この歌にちなみ、年月を経て、世代を越えても、次々に新しい情報をお伝えできるように、堺市立図書館だより「ゆづりは」と名づけました。

バックナンバーは
こちらから▶





藤の木に実がなる過程が知りたい



図書館に寄せられた様々な質問と回答を紹介します

「藤の木に大きな豆みたいな実がなっている。小さな花からどうやって大きな実がなるのか、その過程がわかるような本はないか？」ある年のお盆を過ぎたところに図書館へ寄せられた質問です。小さな花をたくさんつける藤の木に、細長いそら豆のような“さや”がいくつも実るのが不思議だとのこと。

参考になる本を探したところ児童書の『花と実の図鑑』1巻（春に花が咲く木）、に関連した記述がありました。4月中ごろの花穂が伸び、花の咲く様子、そして7月にでき始めた小さな豆のさや、8月ごろの成長途中のさや、10月実が熟し、枯れて色も変わった豆の様子が描かれています。巻末には一般に目にするのはノダフジであり、山野で目にするのはヤマフジであること、それぞれの違いなども補記されています。

この巻では他に黄色くひよろひよろとしたひものような花びらのマンサク、春におなじみのモモやサクラ（ソメイヨシノ）、フジと同じく紫色の花をつけるキリなどが掲載されていま

す。シリーズは2巻（夏秋冬）、3巻（公園や庭）、4巻（校庭街路）、5巻（散歩道）、6～8巻（身近な樹木）の合計8冊で構成されています。大人の目で見ても見ごたえ十分、普段気にしたことのない木々の枝先で、こんな変化が繰り返られていたのかと感心するほどです。



『花と実の図鑑 1』 斎藤謙綱 / 絵、三原道弘 / 文 偕成社 1990

2年前には植物学者、牧野富太郎の伝記本『牧野富太郎』（汐文社、2020）が中学校の読書感想文コンクール課題図書に選ばれ、今期は朝の連続テレビ小説でモデルともなっている昨今、牧野にならって植物に目を向けてみてはいかがでしょうか。

（南図書館 レファレンス担当）

堺市へのふるさと納税で

" 図書館児童資料の充実 " にご協力を！

堺市立図書館では、全国から寄せられた指定寄附金（図書館の絵本購入に限定して活用される寄附金）で、乳幼児向けの絵本を購入しています。

絵本は年齢別のセットにして、市内で活動する子育てサークル・子育てひろばなどへの貸出や、司書が出向いで絵本の楽しみ方を伝える場で活用しています。令和4年度は、延べ約90セットの貸出、約20カ所への訪問を行いました。

寄附の申込み方法等、詳しくは図書館HPをご参照ください。

<https://www.city.sakai.lg.jp/ko-sodate/library/oshirase/lib-furusato.html>



▲ふるさと納税



夏に向けて、お出かけや旅行の計画を立てたい季節です。堺市立図書館電子図書館に、旅行ガイド「るるぶ」の電子書籍を追加しました。かさばらないので旅行に持って行きやすく、旅行先に忘れてしまう心配もありません。ぜひご利用ください。7月にも追加する予定です。

電子図書館には旅行ガイドの他にも、料理や片付けなどの実用書やビジネス書、児童書もたくさんあります。

電子図書館内の下図バナーをクリックすると、「るるぶ」の一覧が表示されます。



▲電子図書館



堺市図書館まつり 4年ぶりに開催

令和5年5月7日、中央図書館で堺市図書館まつりを開催しました。堺市図書館まつりは、図書館を中心に活動しているボランティアグループと協働でおはなし会、読み聞かせ、人形劇や工作などを行い、子どもたちに本や図書館に親しみをもってもらうイベントです。新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年より開催を見送っていましたが、今年、感染症対策を講じたうえで4年ぶりに開催することができました。

オープニングでは、人形劇とともに子どもたちも参加しての恒例のくす玉割りが行われ華々しいスタートとなりました。

集会室ではおはなしや絵本の読み聞かせ、人形劇が行われました。ロビーには子どもたちが自由に絵本を手にとって読むことができる「絵本のひろば」が設けられ、わらべうたや堺に伝わる伝説の語り聞かせが行われました。



入口前では工作とあそびの広場が行われました。工作では牛乳パックのフリスビーとトコトコペンギンを作ることができ、多くの子どもたちが工作を楽しんでいました。またあそびの広場では「牛乳パックのコマ」と「虹コマ」という二種類のコマを作ったり、的当てができたりと、こちらも賑わいを見せていました。

他にも、図書館職員による中央図書館のバックヤードツアー「図書館たんけん」も行われました。普段は職員しか入ることのできない書庫に入ることができるということで、老若男女を問わず多くの方からのご参加があり、皆さん興味深い様子で探検を楽しんでおられました。

終始雨が降り続く中での開催でしたが、多くの方にお越しいただき、大盛況となりました。



ご協力いただいたボランティアグループ

おはなしボランティア

- ・おはなしウーフの会
- ・おはなしかご
- ・おはなしそよかぜ
- ・おはなしどんぐり
- ・おはなしはなたばの会

子ども文庫

- ・堺市子ども文庫連絡会

絵本の読み聞かせボランティア

- ・絵本の会ふうせん
- ・絵本の広場 よっといで！
- ・キッズパル
- ・くるみひろばの会
- ・よみきかせサークル はなしのたね

わらべうた

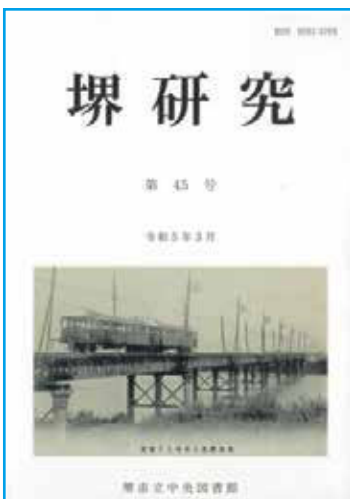
- ・わらべうたの会こまめ

人形劇ボランティア

- ・こども文化ボランティアサークル ア・ラマ
- ・人形劇団 シャボン玉
- ・人形劇とおはなしのふう〜

(五十音順)

『堺研究』第45号発行しました



『堺研究』は堺市立中央図書館が発行する学術雑誌で、昭和41年発行の第1号から当館所蔵史料の紹介や堺に関する論考を掲載してきました。

今号は、宇田正氏(追手門学院大学名誉教授)の「南海鉄道の創立・初期経営過程に於ける佐々木政義(せいがい)の理念と行跡 一松本重太郎との関わりを通して」、島田克彦氏(桃山学院大学経済学部教授)の「近代移行期の泉州における藩領村々と統治機構の再編 一関宿藩泉州領を中心に」、大久保雅央氏(元寝屋川市教委市史編纂課調査員)の「史料紹介: 堺県布達について(二)」の3本となっています。1冊640円で販売中です。

購入ご希望の方は中央図書館までお問合せください。図書館で貸出も可能です。

また、堺市立図書館のホームページでは『堺研究』総目次を公開しています。(https://www.lib-sakai.jp/kyoudo/kyo_sakaiken/kyo_sakaikensou.htm)



▲『堺研究』総目次



司書のイチ押し



本を贈る

笠井 瑠美子ほか／著 三輪舎 2018

本に携わる人たちが「本を贈る」というテーマで書いたエッセイ集です。著者は、編集者、装丁家、校正者、印刷業者、製本業者、取次業者、出版社の営業、書店員、本屋、批評家。様々な職業の方の読者に本を届けたいという熱い想いを感じることが出来る一冊です。

この著者たちの多くが同じように伝えているのが、本づくりはリレーのようなものだという事です。それぞれが各自の専門性を発揮し、次の工程に繋いでいくのだと。

その中でも私は印刷業者、藤原隆充（ふじはらたかみち）さんの「心刷（しんさつ）」という言葉が心に残っています。まだ手書きの原稿が多かった時代に、活字にしていく段階で著者が込めた思いが失われてしまうように感じた創業者は、一文字一文字心を込めて打つことを大切に、著者から受け取った思いのバトンを読者へ届けることの重要性を唱えたことからこの言葉が生まれたそうです。手書き原稿が少なくなった昨今でもこの言葉は引き継がれ、大量生産の仕事でも「1000冊の仕事ではなく、1冊×1000回の仕事」と意識しながら、書き手から読み手へのメッセージを伝えることに使命を持ち続けています。「心刷」という言葉に印刷工程に関わるたくさんの人たちの1冊1冊に込められた思いを感じました。

一方、売り手である書店員の久禮亮太（くれりょうた）さんは、少し違った考えでこのリレーを繋いでいます。久禮さんは本作りのリレーを川に例えると、上流にいる人々の思いよりも、下流にいるお客さんから逆流してくる思いを汲み上げ、その思いに答える品揃えをしていくことを一番大切にしていると言っています。お

客さんの思いに気づき、膨大な書誌情報の中から本を選んでいくことは、私たち司書の仕事にも通ずるものがあります。

それぞれの立場からの「本を贈る」という思いを知ると、普段読んでいる本も今までとは違った視点で見ることができのではないのでしょうか。本の装丁、使われている紙の種類など今まであまり気にしていなかったところも専門家たちの様々な考えがあって作られているということを知ると、また違ったおもしろさを発見できるかもしれません。

そして、本書は奥付という、本の末尾の書誌情報が書かれたページにも特徴があります。通常、奥付には著者名、出版社名ぐらいしか記されていませんが、こちらの奥付にはこの本が完成するのに携わったすべての人の名前が記されています。例えば印刷工程であれば、検版や断裁、紙積み（印刷機に紙を積む作業）に至るまで。まるで映画のエンドロールのようです。この1冊に関わった人の思いを感じてほしいという心意気を感じます。

また、文中には、それぞれの著者が手がけた思い入れのある本についても、そのエピソードとともに紹介されていますので、気になったものを読んでみるのもおすすめです。



『本を贈る』笠井 瑠美子／〔ほか〕著 三輪舎 2018



(M・K)

堺市立図書館電話番号一覧

中央図書館	244-3811	西図書館	271-2032	人権ふれあいセンター船松人権歴史館	
くすのき号	244-3811	南図書館	294-0123	人権資料・図書室	245-2534
堺市駅前分館	222-0140	梅分館	296-0025	青少年センター図書室	228-6331
中図書館	270-8140	美木多分館	296-2111	図書館カウンター堺東	232-1011
東百舌鳥分館	234-9600	北図書館	258-6850		
東図書館	235-1345	美原図書館	369-1166		
初芝分館	286-0071				



▲図書館 HP

<https://www.city.sakai.lg.jp/kosodate/library/>